



〒933-0804 高岡市問屋町 40 (有) 沖商店

沖 昌弘

TEL 0766-25-2525(にっこりにこにこ)

E-mail

FAX 0766-26-5500(ふるへごーごー)

oki2525@oki-shouten.com

謹啓 毎度格別のご最頁に預り厚く  
お礼申し上げます。

本通信は、皆様のご意見を頂いて私  
の人生修行の糧といたしたく、ひと月  
に一度お届けしています。どうぞ、忌  
憚の無いご意見をお寄せください  
ようお願い申し上げます。 謹白。

一 情けは人のためならず

「困っている人には、情けをかけて助  
けてあげなさい。それは巡り廻って必  
ずあなたに返ってきます。情けは人の  
ためではなく、あなたのためになるの  
です」。これが本来の「情けは人のため  
ならず」の意味です。ところが、最近  
は「この世の中の苦勞は、人それぞれ  
に自分を試し、強くするためであり、  
それはあたかもスポーツ選手が自分を  
鍛えるために、筋トレや減量に苦しみ  
ながら努力をしているようなものであ  
る。だから、その人の苦しみ困窮を助  
けるのは、その人の最終的目的への努  
力の邪魔をすることになる。そんな人  
に情けをかけて助けてあげるのは、そ  
の人のためにならない」と答える大学  
生が多くいるそうです。以前には笑っ  
て済ませていましたが、この頃はこち  
らの方が正解かなと思われれます。

以後は私の意見です。  
これは、農耕民族の最たる者・日本

の美点と常識が、略奪・狩猟民族の最  
たる者・アメリカの文化・制度に毒さ  
れた結果です。自己の能力をひけびら  
かさず（＝これみよがしに誇張せず）  
能力の勝れた者が劣る者を助け、共に  
生活する農耕民族方式。個人能力を重  
視し、能力の勝れた者が勝つのは当た  
り前とする社会。どちらが上等な社会  
でしょうか。結論は前者であります。

後者は自然的・自由主義社会であり、  
前者はより人工的社会と言えましょ  
う。即ち、人間たる私たちは、原始の  
時代から進化し今日に至ってまいりま  
した。それは、「自然からの恵み」のお  
かげであります。「自然からの恵み」は、  
大別すると「採取」と「狩猟」に分け  
られます。「採取」は栽培に進化しまし  
たが、「狩猟」は殺戮・消費だけです。  
近頃、ようやく気がついて養殖に乗り  
出しましたが、間に合うでしょうか。

日本をはじめ、東南アジアの国々と  
西洋諸国を比べてください。自然を大  
切にし、自然からの恵みの範囲内で生  
活する農耕民族。作物栽培ができなく  
て自然からの搾取だけで生活する（近  
代に入り自国の狩猟では足りず、地球  
上を傍若無人に荒らし廻り、片っ端か  
ら殖民地にして搾取する）狩猟民族。  
アメリカはその最たる者です。そんな

国を自国より進んでいる（物質的では  
なく精神的に）と誤解している日本人  
の何と多いことか。今日の日米関係を  
別にして考えを改めましょう。

「富山方言番付」

東の前頭「あつたらもない」

意味＝勿体無い。惜しいことをした。  
惜（あたり）もない。

「あの道具、ほっぱつたがけ。まだ、  
つこわれたがに、あつたらもない」＝

「あの道具、捨てたのですか。まだ、  
使えたのに、勿体無い」。

「あこのお嬢さん死んだったあ。頭も  
いいし、器量も良かったがに、あつた  
らもない」＝「あこのお嬢さん死なれ  
たあ。頭も良いし、器量も良かったの  
に、惜しいことをしましたね」。

西の前頭「おとましい」

意味＝勿体無い。疎かにできない。

「こないだ、きもんこうてあげたがに、  
なんで着てこんがいねん」「おとまし  
て」＝「先日、着物を買ってあげたの  
に、何故、着てこないの」「勿体無くて」。

「こん時のために貯めてきたお金やさ  
かい、おとましがらんと、つこうお」  
＝「この時のために貯めてきたお金だ  
から、勿体無がらずに使いますよう」

次回は 東の前頭「はちめくわず」

西の前頭「こしまきかぶり」